

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

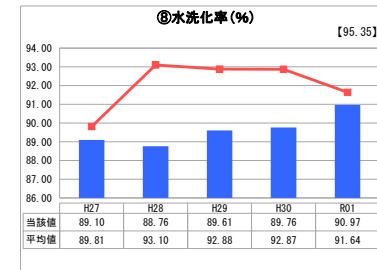
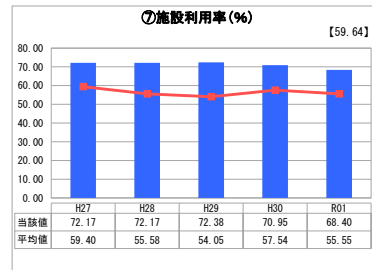
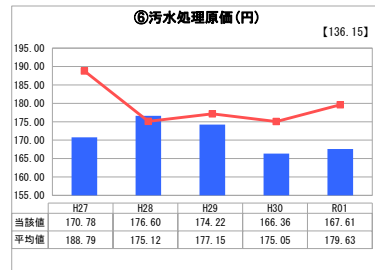
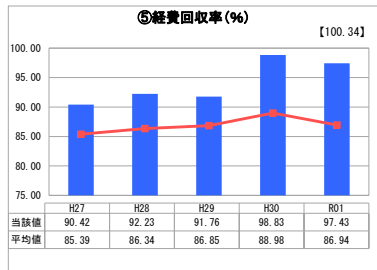
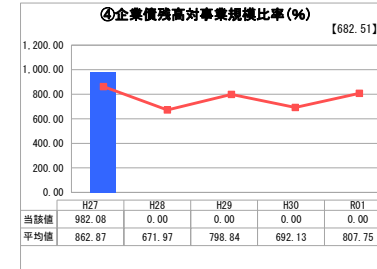
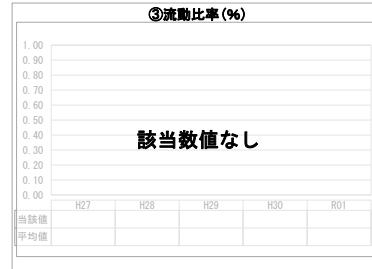
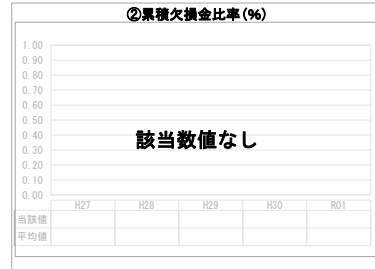
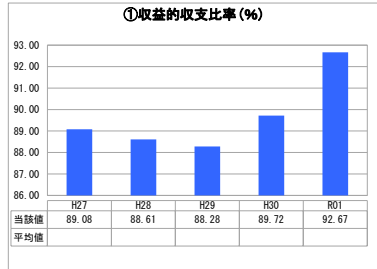
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	85.68	67.05	2,783

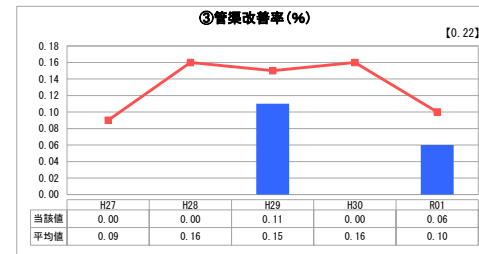
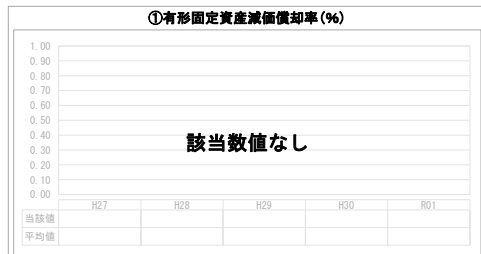
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
22,946	253.88	90.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,516	8.18	2,385.82

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」は、地方債償還金が増加したものの他会計繰入金の増により、前年度よりも高くなっている。今後は、料金収入の減少や維持管理費等の増加により、ますます厳しい経営状況が見込まれるため、料金改定検討を含めて経営安定化を図り、収益的収支比率100%以上を目指していく。

②「累積欠損比率」は、料金収入に対する地方債残高の割合であるが、当市は、企業債の償還は一般会計繰入金からの負担としており、0%となっている。

③「流動比率」は、使用料の減少額が汚水処理費の減少額よりも大きかったことにより、前年と比較して微減となっている。

④「企業債残高対事業規模比率」は、料金収入に対する地方債残高の割合であるが、当市は、企業債の償還は一般会計繰入金からの負担としており、0%となっている。

⑤「経費回収率」は、季節による使用量の増減が大きいことから、当市の施設は処理能力が高くなっており、他団体と比べて利用率が高くなっている。今後は人口減少に伴う有収水量の減少が見込まれることから、施設のダウンサイジングなど有効な対策を考えていく必要がある。

⑥「汚水処理原価」は、有収水量と汚水処理費ともに減少しているが、有収水量の減少率の方が高かったことから、微増となっている。

⑦「施設利用率」は、季節による使用量の増減が大きいことから、当市の施設は処理能力が高くなっており、他団体と比べて利用率が高くなっている。今後は人口減少に伴う有収水量の減少が見込まれることから、施設のダウンサイジングなど有効な対策を考えていく必要がある。

⑧「水洗化率」は、人口減少に伴い、水洗化人口及び処理区域内人口ともに減少しており、水洗化率は大きな変化はない。料金収入を確保するためにも、水洗化率100%を目指して下水道接続促進を続けていく。

### 2. 老朽化の状況について

③「管渠改善率」は、当市の下水道利用開始が昭和60年のため、管渠耐用年数の50年を超える老朽管はないものの、今後の更新需要の増大に備えて、適正な管理や早期の修繕により、可能な限り耐用年数を伸ばすことで、設備投資の増加を抑制していく必要がある。

## 全体総括

勝山市の下水道事業は、人口減少に伴い、下水道使用料収入が長期的に減少していくことが予想される中、維持管理費が今後増加していくことや農業集落排水事業の統合について十分に検討が必要があることなど、今後も厳しい経営環境に置かれることが予想される。

適切な維持管理に努め、必要な施設整備・更新を着実に推進し、将来の下水道サービスを安定的に提供していくための費用を見込みながら、引き続き財政基盤の強化に努め、中長期的な視点に立って財政運営を行っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。